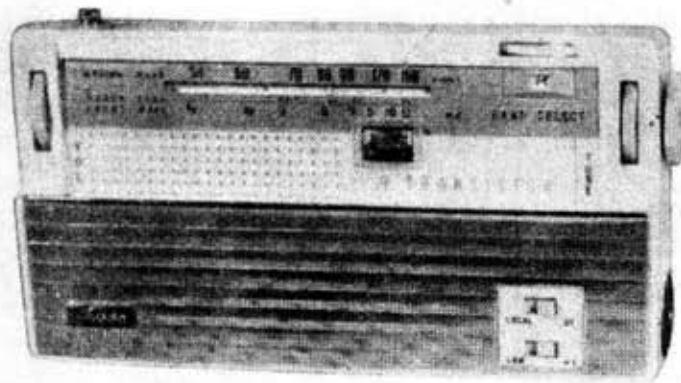
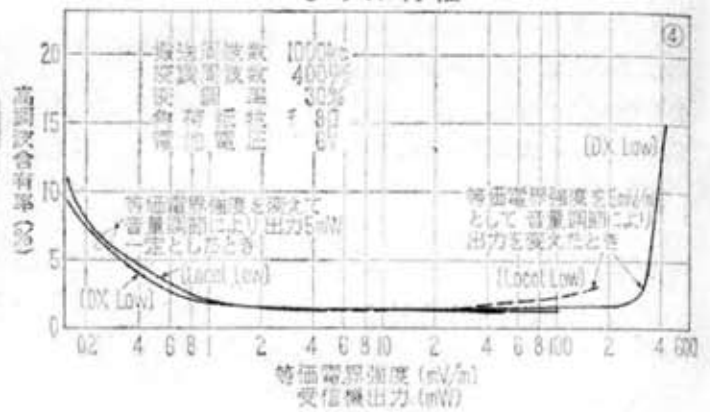


東芝 9石 3Band 9L-460S 形



ひずみ特性



回路構成

2バンド、9石、2ダイオードで、高周波増幅1段つき、局部発振回路は他励を採用。ダイオードの1本はリミッタである。

短波は中波と同一フェライト・コアを用い、3.8~12 Mc。

スピーカは8センチ円形で、電源は単二が4個の6V。

測定結果

感度特性は S/N=30 dB のときの中波が 55 dB 前後 (Local, DX とも) とすばらしくよい。短波は Local のときで 63 dB 前後、DX だとよくなつて 53 dB 前後だから、こんど測つたなかでは、たいへんよい値となつている。ただし、本機は高周波増幅が1段ついている点に注意。

感度差も中波ではほとんどないし、

(第1図)

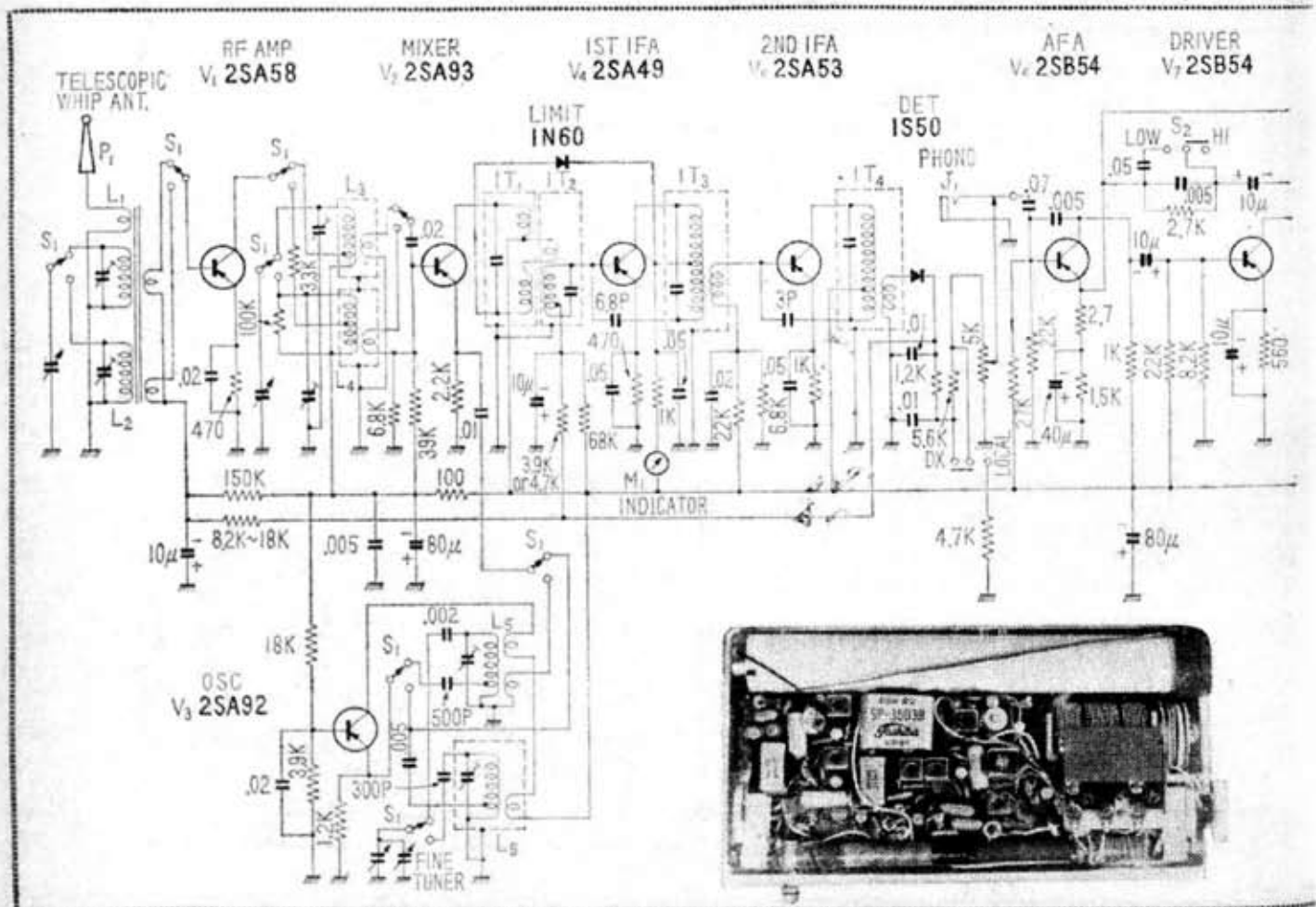
短波ですら 6 dB くらいだからよい。

短波帯のほうが中波帯よりよいのは実用上便利。

妨害特性は、イメージ、中間周波とも、両バンドにわたつてよい。

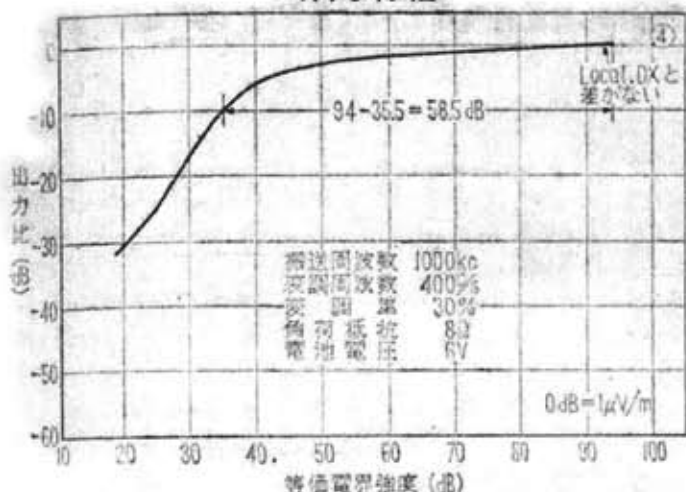
ひずみ特性は、1000 kc で中信号のとき 1.2% くらいだから極めてよい結果が出ている。

選択度は左右少し不釣合だが、実用



現金正価 14,800 円

AVC 特性



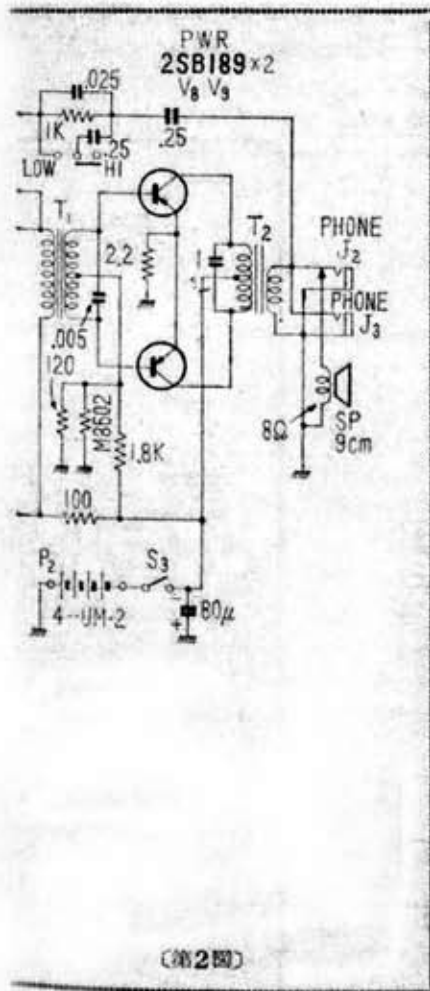
(第3図)

上さしつかえないし、通過帯域幅も感度が上がるように 6 kc (1000 kc で) となっている。減衰傾度も 25 dB/octave 以上あつていい。

電気的忠実度は、Low のほうでは相当狭くとつてある。こうして感度を上げている。

AVC特性は 58.5 dB もあり、非常によい。

内部構造で、一寸変わった点は電池の



(第2図)

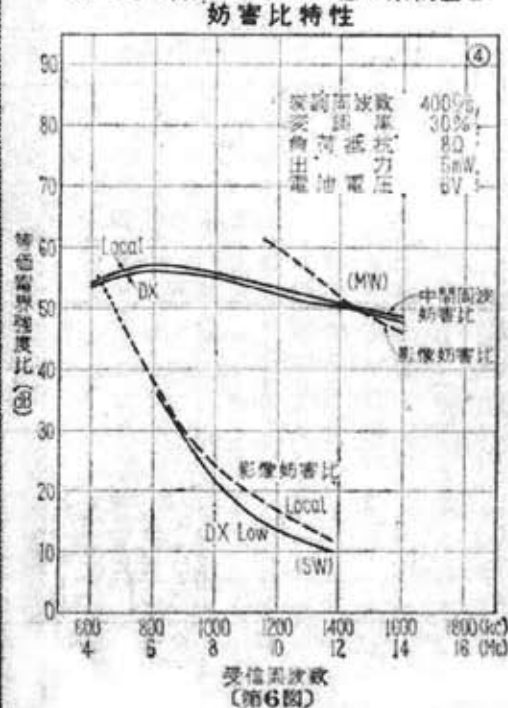
だし入れを裏プタをあけなくとも、正面から左にネジ式に単二を入れるようになってるのが便利だ。

バリコンは、エアーバリコンを使用しており、左が高周波部、右が低

周波部となつており、中央にスピーカがあるのは、他のセットと同様である

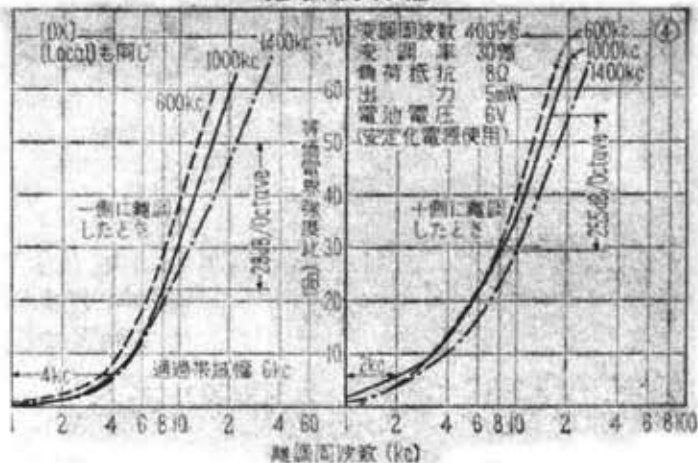
CR 部品は、立体的に配線されており、一寸こみ入つた感じをあたえる。

パワートランジスタには、ひれ状の放熱板をつけて、出力の増加をはかっている。外観はクリーム色と茶褐色と



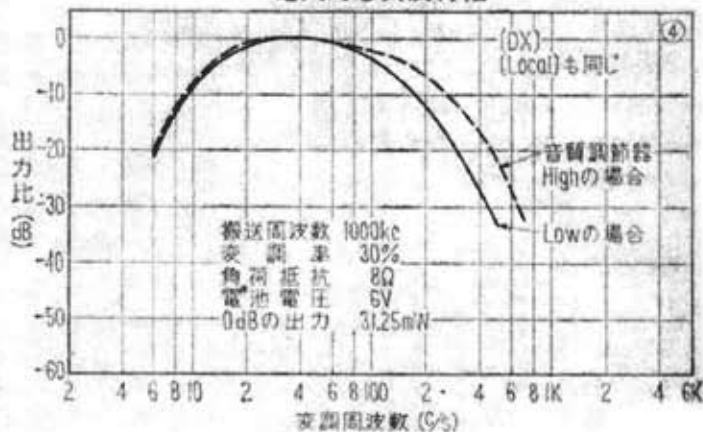
(第6図)

選別度特性



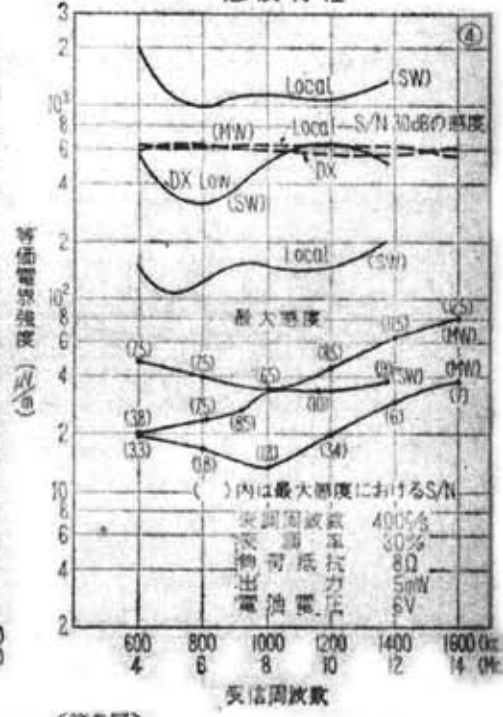
(第4図)

電気的忠実度特性



の 2 トーンカラー、ダイヤルは大きくて見やすい。そして同調指示器がついていて便利、短波では右横にファイニング・チューニングがついている。ロッド・アンテナは自蔵。外形寸法は幅 215 × 高さ 120 × 奥行 49 (mm)。

感度特性



(第7図)